

週報

「信じます。

不信仰なわたしを、
お助けください」。

(マルコによる福音書第9章24節)



人と神、人と人をつなぐ難しい働きをしています
日本基督教団 西宮 共同教会

〒662-0834

兵庫県西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691

FAX 0798-63-4044

郵便振替 01170-3-4901

ホームページアドレス

<http://www.koudou.jp/>

電子メールアドレス

koudou@gamma.ocn.ne.jp

小さな手大きな手

「東電福島事故から15年」

- ・1月21日 「空タンク解体に着手、第一原発『J8』エリアの8基」
- ・1月23日 「第一原発、処理水放出、2026年8回、東電計画案、今年度より1回多く」
- ・1月30日 「東電第一原発2号機圧力容器内部、2026年度上期に初調査、デブリ取り出しへ情報収集」「汚染水制御目標、前倒し達成」「帰還困難区域で1年間林野作業で、被ばく線量1回のX線検査未済」
- ・2月11日 「石原環境相、秋までに利用先決定、石原環境相、省庁出先で」
- ・2月14日 「特定帰還居住区域、双葉100ヘクタール、富岡55ヘクタール拡大」
- ・2月17日 「双葉の特定帰還居住区域、羽鳥行政区一部で、立ち入り規制緩和」
- ・2月27日 「第一原発3号機ドローン調査、来月にも、東電、格納容器内トラベルで延期」「デブリ取り出しに、アーム型装置検討、2号機」
- ・3月2日 「除染土処分、受け入れゼロ、24知事『判断できない』」
- ・3月3日 「東電、乾式貯蔵施設の着工延期、第2原発、完成時期も再検討」「処理水6日にも放出開始、今年度最後、第一原発『2段階』で」「除染土県外処分、双葉町長『全国周知進まず』」
(以上、福島民報)
- ・3月9日 「福島第一、4年前に『想定外』判明、原発コンクリート消失謎のまま」「福島第一続く調査、消失の謎、解明へ仮説、検

証阻む放射線」「冷却一時は機能？水素爆発、複数回か」「欧米の教訓生かせず『自国の事故から学ばなければ最悪』」「51年までに廃炉、多難の道」「デブリ880トン、採取したのは0.9グラム」「処理水放出、現状ペースでは間に合わず」「作業に伴う廃棄物、処分場所や方法未定」
(3月9日、朝日新聞)

「原子炉が次々メルトダウンし、水素爆発を起こした東京電力福島第一原発。2011年の事故から10年以上たつて新たに判明した『想定外』がある」「22年5月、1号機の原子炉直下の入り口に初めて調査団の遠隔操作ロボットが入った。溶け落ちた核燃料（燃料デブリ）などの確認が目的だったが、原子炉を支える台座に差しかかると、むき出しの鉄筋が映し出された」「台座は鉄筋コンクリート製で、内径約5メートルの円筒形。根元の一部が鉄筋を残してなくなっていた。『地震に耐えられるのか』『原子炉が傾かないのか』。衝撃的な映像に注目が集まり、地元では不安の声が上がった」「翌年、さらに奥に進むと消失は台座の全周にわたっていることがわかった。床から1メートルの高さまで、1.2メートルの厚みの内側半分ごっそり帯状に失われていた」「原子炉の周りは人が近づけないほど放射線量が高く、補強は難しい。東電は、原子炉には横からの支えもあることなどから『大規模な損壊に至る可能性は低い』とする。ただ、地震で沈下する可能性は否定できない。廃炉作業の間、監視続けなければならない。この消失は、原子力関係者にも衝撃を与えた」(2026年3月9日、朝日新聞)。

(次週につづく)